

学校教育目標		自他を大切にし、主体的に学び合う心豊かでたくましい児童を育てる		重点目標		○自分の考えを書き、理由を説明できる ○自分のめあてに向かって進んで運動ができる		○気持ちのよい挨拶・黙って掃除ができる	
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)		
重点目標	基礎的、基本的な知識・技能の定着 (言語事項・計算技能の定着)	学力向上タイムの充実 計画的な習熟と活用の育成	・毎週確実な実施 100% ・単元テストの達成率 80% ・学力テスト(算)全国平均点以上	4	○学力向上タイムは工夫して計画的に実施することができた。 ○単元テスト:国語は全学年目標を達成することができた。算数は下学年では十分目標を達成することができた。 △個人差の解消の必要がある。	A	・単元テストは良好な成績が取れている。国語は学年が上がっても点数の差が少ないのに、算数は学年が上がるにつれて全国平均との点数の差が広がる事が気になる。 ・学力検査は学校全体として目標を達成するなどよくできている。 ・小学校の高学年では、中学校のテストを意識した学習の行い方も、必要に応じて取り入れてもいいと思う。	・学力の確実な定着に向け、授業の充実を図る。特に経験年数の少ない教職員には定期的に授業観察をし、改善策を共に考えていく。 ・学習規律の徹底を図るために、「中央小学校スタンダード」を全クラスで共通実践し、学校全体の底上げを図ることができるようになる。 ・学習習慣の定着を図るために、個に応じた家庭学習の課題を与える。 ・小中連携に向け、高学年のテストの受け方など中学校の方法を一部取り入れる。	
		学力向上プランの計画に基づいた実施と点検 学期3回	・計画に基づいた実施 ・教師アンケート 3以上	3	○学力テスト(算)では、全体として目標を達成することができた。 ○家庭学習のチェックリストの提出率は毎回90%以上で、ほとんどの子は家庭学習の習慣が身につけている。 △授業への集中力を高め、教え合い、高め合う学級づくりをさらに進める必要がある。	A			
		家庭学習(質と量を考慮)の定着と自主学習の習慣化(高学年)	・チェックリスト提出率 100% ・自主学習の実施 80%	3		A			
目標	思考力、表現力の育成 (根拠を明確にした説明)	理由や根拠を記述する言語活動の重視 学年に応じた学び方(話し方・聞き方)の指導の徹底	・授業場面の設定 ・教師アンケート3以上 ・教師見とり 80%の児童	3	○授業場面に考えを説明する活動を意識して取り入れることができた。 ○表現力を高めるために相手意識を持った話し方や発表の仕方の指導(特に国語や総合等)を行った。	A	・学級毎に工夫を凝らした指導や特徴を出した教室環境づくりがされていた。 ・説明する活動が、ペアや少人数ではできているが、全体の中での発表が苦手なことの原因追求と解消に向けた手立ての検討が必要である。	・今後も考えを説明・交流する活動を授業時間に確実に位置付ける。 ・高学年ほど人間関係を心配し、意見を言わなくなるので、支持的な学級づくりを重視し、何でも言える雰囲気づくりに努める。	
		子どもが主体となって活動する授業づくり	・二人毎日一回発表回数 80% ・児童アンケート 80%	3	△ペアやグループでの意見交換等はできている。しかし、全体の中での発表には、苦手意識を持つ児童もいる。	A			
		良好な人間関係の構築 (望ましい生活習慣の育成)	学年の段階に応じた挨拶の徹底(元気に、進んで、気持ちのよい) 学年の段階に応じた掃除の徹底(黙って、時間いっぱい、工夫して)	・児童アンケート 90% ・教師アンケート 3以上 ・児童アンケート 80% ・教師アンケート 3以上	3	○挨拶運動など、児童会が中心になって取り組み、自分たちで「4つの宝(気持ちのよい挨拶・時間を守る・しっかり掃除・正しい言葉づかい)」を大切にしようという意識が高まった。	A	・「4つの宝」の取組は、再編しても継続してほしい。 ・掃除の仕方や道具を大切に使うことも教えていく必要がある。 ・たてわりでの挨拶運動はこれからも大切にしていきたい。 ・見守り隊への明るい元気な挨拶はうれしい。	・朝から元気の良い挨拶ができるように新校でも子ども達が自ら取り組めるような分かりやすいスローガンを設定して、自覚化を促す。 ・そうじ道具をはじめ、公共の物を大切に扱うという指導を繰り返し行っていく。
評価	豊かな心の育成 (思いやりの心)	道徳の時間の確実な実施	・重点指導項目の実施 100% ・自己を見つめる時間の確保	3	○年間指導計画、週指導計画に基づいて確実な実施ができている。 △自己の生き方を見つめなおす時間の確保が必要である。	A	・先生達が子ども達と接する時間を多くとれるよう会議や事務処理の更なる簡素化を望む。 ・中学生でも課題であるが、他人の気持ちを考えることができるようにすることで、ネット等のトラブル解消につなげたらよいと思う。	・再編後の人間関係の構築が課題となる。そのためにも道徳の時間に自己理解・他者理解を深めさせることはますます大切になるので、その時間を確保した授業づくりに取り組む。 ・SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)などを活用して、人間関係づくりへの支援を行っていく。	
		読書活動の推進	・読書タイムの実施 90% ・個人目標冊数の達成 80%	4	○読書タイムや給食後等の隙間時間の有効活用を図ることができた。	A			
		たてわり活動の充実	・児童アンケート80%	3	○たてわりでのグループ活動は高学年がリードして活動できた。(5年生の成長)	A			
いじめ	運動に親しむ子どもの育成 (めあてをもって体力づくり)	体力テストの活用(毎日の運動)	・児童アンケート(外遊び) 下学年90%以上 ・上学年80%以上	3	○金曜の体力アップタイム、始業前の朝リレーやなわとびなど体力向上に取り組んだ。	A	・なわとび検定など体力向上に向けた取り組みはよいと思う。 ・子ども達が休み時間や放課後など、自主的な遊びで体力向上を図る取組を続けてほしい。	・体育館がなく、運動場が半分しか使えなくなるので、限られたスペースでの運動量の確保の工夫を行う。 ・隣接する笹林公園を効果的に活用する。 ・「体力アップシート」を活用して、自主運動を促す。	
		授業での1単位時間の運動量の確保	・教師アンケート3以上	3	○学校行事との関連で積極的に休み時間なども使って、運動に取り組んだ。 △体力テスト結果を活用して、重点化した取組をする必要がある。	A			
		体力アップタイムの実施 チャレンジカードの活用	・参加率100% ・カード達成率100%	3		A			
不登校	早期発見・早期対応 「しない・させない・見逃さない」 指導体制の機能化	生活アンケート、チェックリストの活用	・確実な実施 100% ・実施後の教育相談	4	○生活アンケート、チェックリストは毎月確実に実施し、気になる子の教育相談を行ったり家庭との連携を取ったりできた。	A	・人間関係づくりが苦手な子どもがいるようだが、今後もいじめが起きないように、継続して配慮をしてほしい。 ・ネットトラブルは、保護者の協力も得ながら、取組の効果を更にあげてほしい。	・子ども達が安心でき、自分の居場所がある学級づくりを進める研修を行う。 ・チェックリストやアンケートを継続して確実に実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・スマホなど、保護者への啓発を継続する。	
		「気になる子交流会」での共通理解及び保護者との連携	・定例化 月1回 ・迅速な保護者対応	3	△人間関係づくりの苦手な子どもの指導の工夫が必要である。 △携帯・スマホ使用について保護者への啓発が必要である。	A			
不登校	早期対応	マンツーマン体制の確立	・ケース会議での共通理解と組織的対応	4	○SCを活用した不登校に対する職員研修を行い、意識を高めることができた。	A	・不登校問題には家庭環境も含めて対応が難しい面もあると思うが、これからも関係機関との早期の連携をお願いしたい。	・「福岡アクション3」に基づいた敏速・丁寧な対応を確実に実施する。 ・本人、保護者の声を丁寧に聞き、関係機関と密接な連携を行う。	
		「アクション3」の確実な実施 家庭及び関係機関との連携	・欠席3日で家庭訪問、保護者面談の実施 ・SSWや要対協の活用	3	○「福岡アクション3」に対する職員の意識が更に定着してきた。	A			

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4: 目標達成(90%以上) 3: ほぼ達成(70%~90%) 2: もう少し(60%~70%) 1: できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A: 自己評価は適切である B: 自己評価はほぼ適切である C: 自己評価はあまり適切でない D: 自己評価は不適切である